

# チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



## 幼稚園・保育所研修会から



### 〈日ごろ悩んでいること〉

- ・新しいことをやろうとするとパニックになる
- ・発音不明瞭 言葉が遅い 理解力が弱い
- ・話を聞くことが苦手で集中力が途切れる
- ・落ち着きがない（目が離せない、衝動性が強い、手が出る）
- ・保護者への伝え方が難しい
- ・集団行動が難しい（一人遊びが多い）
- ・自分の気持ちを表現できない
- ・こだわりが強い（食べ物 一番等）
- ・家庭環境が影響しているケースがある

### 〈協議で話題になったこと〉

#### 1 保護者への支援

- ・父親と母親の意見が違ふことが多くある。父親は楽観的、母親は悲観的に考える傾向があるため、両者の思いのカタチが重なるように調整する。
- ・保護者が障害を受容するまでの意識の変化は、未認知の時期⇒悩みの時期⇒揺れ動きの時期⇒やむを得ず受け止める時期⇒積極的に支援を求める時期の過程を経る。保護者の思いの変化や置かれている立場を考慮しながら支援する。
- ・保護者との信頼関係を築くためには、自信をもって子どもと関わる姿を見せること、ホッとくつろげる言葉をかけ続けること、子どものよいところをたくさん伝えること、そして、尋ねる姿勢をもつことが必要である。

#### 2 周りの子どもへの支援

- ・周りの子どもを育てるためには、「いつもあなたの頑張りをしているよ」という肯定的なメッセージを送り続けるなど、一人一人に合ったえこひいきをする。また、支援を必要とする子どもに対して、保育者がどのように関わっているかが、周りの子どもの行動に影響するので、保育者がよいモデルとなる。

#### 3 こだわりの強い子どもへの支援（食事編）

- ・偏食指導のキーワードは、「楽しく・おいしく・歩み寄りができる信頼関係」である。嫌いな食べ物の量を減らす、周りがおいしそうに食べる姿を見せる、～を食べれば好物が食べられるという見通しをもたせる、調理実習を取り入れてみんなで食べる、好きなアニメのキャラクターの型抜きを活用したお弁当を作る、うまく食べたときにほめる等が有効です。「一口食べてみようか」、「この先生の誘いにのってみようか」と思える関係づくりが大切です！



#### 4 園内支援体制の構築

- ・子ども支援だけでなく、家族支援も増えている。担任による指導には限界があるので、園全体で支援する。ケースによっては、園内体制でも限界があるので、福祉、保健、教育等の関係機関と役割分担しながら支援を進めていく。

#### 5 その他

- ・子どもがよい行動をしたときに、「花丸カード」をポケットから取り出してほめているという紹介があった。
- ・気付きを園から保護者に伝えることが難しいため、5歳児健診の必要性が話題になった。研修会終了後のアンケートでも、すべての市町村で実施してほしいという声が多く聞かれた。さらに、幼稚園・保育所の現場から行政に届けてほしい。

